

国営飛鳥・平城宮跡歴史公園

平城宮跡区域（国営平城宮跡歴史公園）

整備・管理運営プログラム

今後取り組んでいく令和7年度までの整備及び管理運営方針



はじめに	1
本公園のストック効果	4
基本方針	5
整備の重点方針	6
管理運営の重点方針	7
公園事業の効果	9

令和3年 6月

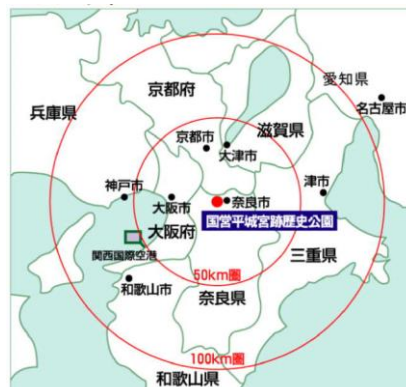
国土交通省 近畿地方整備局

“奈良時代を今に感じる”公園を目指して

国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域(国営平城宮跡歴史公園)は、奈良市内に広がる特別史跡平城宮跡を計画地とした国営公園です。世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つであり、我が国を代表する歴史・文化資産である平城宮跡の一層の保存・活用を図る目的で、国と奈良県を中心とした地域が連携して整備することが、平成20年度に閣議決定されました。以後10年にわたる整備により、平成30年3月に朱雀門南側を中心として第一期開園を行いました。現在は第一次大極殿院建造物の復原整備を続けているとともに、平成30年度以降、年間およそ100万人程度の方に来園いただいています。

この整備・管理運営プログラムは、社会資本整備重点計画の計画期間にあわせ、今後国営平城宮跡歴史公園が取り組んでいく令和7年度までの整備及び管理運営に関する重点項目を策定し公表するものです。なお、本プログラムは今後社会情勢等を踏まえ、必要に応じて見直していきます。

■広域位置図



■位置

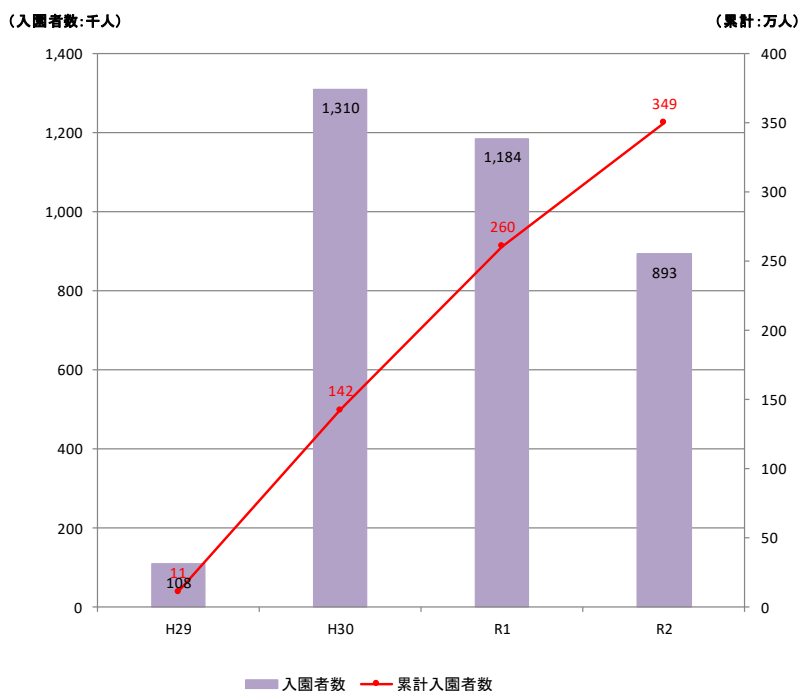
奈良県奈良市

■平城宮跡歴史公園の構成・面積

国営公園区域 約122ha
(うち、開園区域面積 31.8ha)
特別史跡平城宮跡を中心に朱雀大路とその東側

県営公園区域 約15ha
(うち、開園区域面積 3.1ha)
朱雀大路西側等、平城宮跡の南側国営公園と連携して整備

■入園者数の推移



■これまでの取り組み

大正11年	平城宮大極殿・朝堂院跡が史跡に指定
昭和34年	奈良国立文化財研究所による継続的発掘調査の開始
昭和52年	「平城遺跡博物館基本構想」に基づき整備事業が本格化
平成10年	朱雀門、東院庭園の復原が完成 平城宮跡を含む「古都奈良の文化財」がユネスコの世界遺産に登録
平成20年	平城宮跡区域を国営公園として閣議決定 公園基本計画の策定(国土交通省)
平成21年	都市計画決定 国営公園整備の事業着手(国土交通省)
平成22年	第一次大極殿の復原が完成(文化庁) 平城遷都1300年祭が開催
平成25年	拠点ゾーン整備計画の策定(国土交通省)
平成29年	第一次大極殿院復原工事着手
平成30年	第一期開園

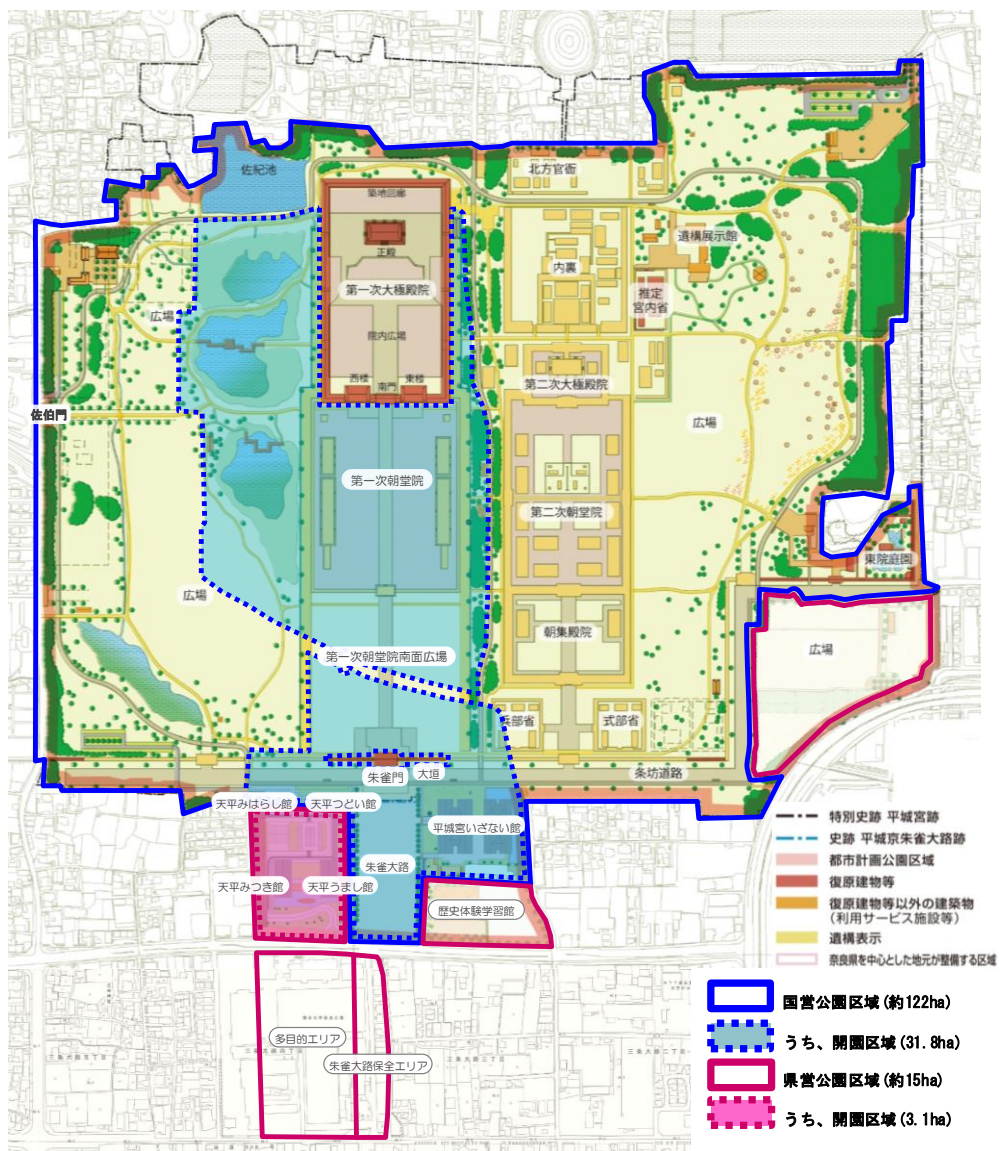
はじめに

● 公園整備の基本方針

国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域(国営平城宮跡歴史公園)は、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を創出する」ことを目指し、以下の方針のもと、平城宮跡及びその周辺一帯の整備を進めていきます。

- ① 特別史跡・世界遺産である歴史・文化資産としての適切な保存・活用
- ② 古代国家の歴史・文化の体験・体感
- ③ 古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり
- ④ 国営公園として利活用性の高い空間形成

● 公園の概要



基本計画図 (開園区域追記)

はじめに

● 主な施設の概要

朱雀大路・二条大路

平城京のメインストリートである朱雀大路・二条大路を復元的に整備し、奈良時代の往時の平城京の姿を彷彿とさせる空間を創出しています。

朱雀大路は幅約 74m、朱雀門から南へ約 250m の区間を整備しており、「天平祭」等の地域と連携したイベントの開催場所としても活用されています。



朱雀大路・二条大路

平城宮いざない館

平城宮の魅力を伝えるガイダンス施設です。映像プログラムや模型等により、平城宮のかつての姿やそこで暮らす人の営みについて体験的展示をするとともに、出土品の読み解き等を通じて、来園者を平城宮へと誘います。



平城宮いざない館

復原事業情報館

長期にわたる第一次大極殿院建造物復原事業について、その取組や整備の意義、目的について分かりやすく紹介し、復原事業についてより理解を深めていただくための施設です。

復原工事で用いられている古代の工法や技術、材料や道具について、資料サンプルや映像等で体験的に学習することができます。



復原事業情報館

■公園内の主な施設と復原建物



本公園のストック効果

● 歴史・文化的遺産の保存活用

貴重な歴史・文化的資産である平城宮跡が公園であることにより、良好な状態で確実に保存されます。加えて、展示や体験プログラム、イベント等により往時の歴史・文化、平城宮跡保存の意義や魅力を様々な世代に伝えます。



平城宮いざない館内の展示（模型や映像による平城宮跡の紹介）

● 奈良地域の観光拠点

公園整備前から奈良地域の歴史資源であった平城宮跡を公園として整備することで、歴史・文化に関する学習や休息の場、周遊のための案内などが充実します。これにより平城宮跡の観光拠点としての質が向上し、春から秋にかけて来園者の6割以上が観光目的で来園するなど（令和元年度）、観光振興に貢献します。



観光拠点となる朱雀門ひろば

● 自然的環境の保全

平城宮跡は奈良地域において一定の規模を有する緑地でもあり、ヨシ原に埒（ねぐら）入りするツバメをはじめ、野鳥の生息空間になっています。こうした貴重な自然的環境が公園として適切に保全されます。



平城宮跡内のヨシ原でのツバメの埒（ねぐら）入り

● 安全・安心なオープンスペースの提供

平城宮跡は奈良市地域防災計画で広域避難場所に指定されています。地震などの災害時には多くの周辺住民を受け入れる、安全・安心なオープンスペースを提供します。



甲子園球場が約30個入る広大なスペース

平城宮跡を良好な状態で保存するとともに、 往時の歴史・文化を体感・体験できる公園を目指し て、段階的に整備を進めます。

貴重な歴史・文化的資産である平城宮跡を確実に保存し、良好な状態で後世に伝えるとともに、誰もが楽しみながら古代国家の歴史・文化を体感・体験できるよう、開園区域の公園利用サービスの向上を進めるとともに、第一次大極殿院の建造物の復原を引き続き行います。

● 整備・管理運営プログラム策定の視点 ～保存と活用の方向性～

平城宮跡の 保存

平城宮跡における歴史・文化資産の保存・活用、景観や自然的環境の保全、レクリエーション利用、災害時の避難場所など多様な機能との調和の取れた公園の整備を進めていきます。

整備にあたっては、関係機関との綿密な協力のもと既往の調査結果や新たな発掘調査の成果をもとに、遺構の保存に配慮した設計を行うとともに、地下遺構を傷つけないように細心の注意を払いながら工事を行います。



調査の様子

平城宮跡の 段階的な 整備と活用

関係機関との連携のもと、建造物の復原と周辺空間の一体的整備により、来園者が往時の空間を感じながら、安全・快適に利用できる公園整備を段階的に進めます。

さらに、工事中の情報案内や施設の活用を工夫することで整備の進行状況を明らかにするとともに、現在まで伝承される古（いにしえ）の技術のすばらしさを発信します。



南門の素屋根工事の様子



素屋根に貼られたイメージ図のシートと見学用デッキ

整備の重点方針

方針① 第一次大極殿院建造物の復原工事を推進するとともに、 現在まで伝承される古(いにしえ)の技術のすばらしさを 発信します

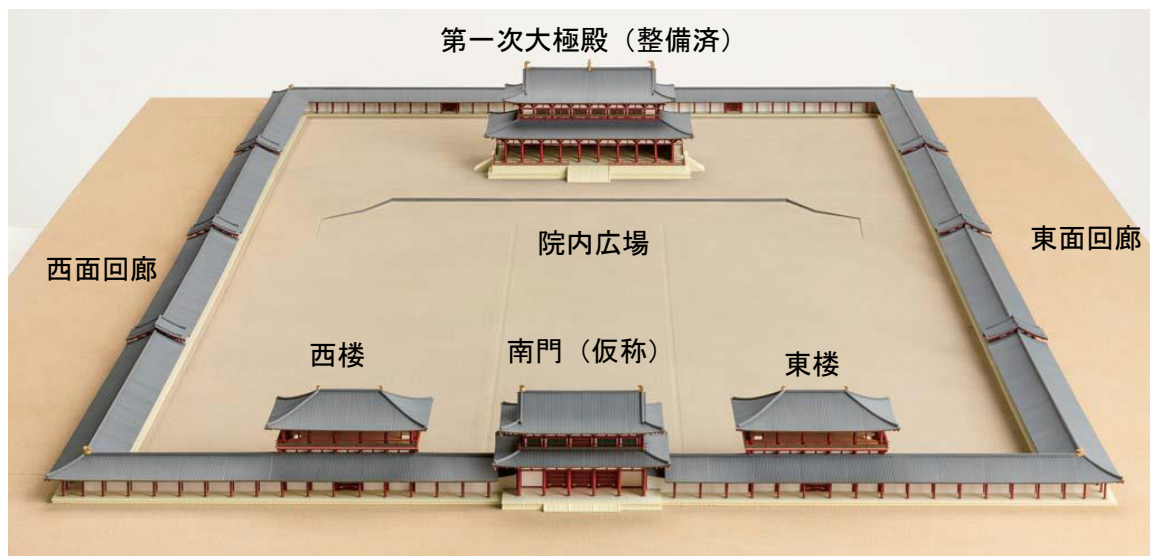
本公園のシンボルゾーンにおいて、往時の平城宮の壮大・壮麗・荘厳さを体感できるよう、これまでの発掘調査や様々な研究に基づき、第一次大極殿院建造物の復原を引き続き進めます。

平成29年に復原工事を始めた南門(仮称)については供用を行い、来園者にご覧いただけるようにします。また、南門完成後は、南門の東側に位置する東^{ひがしろう}楼の復原工事に着手します。

これにより、かつて即位の礼や朝賀の儀などの国家的な儀式が執り行われた、平城宮のなかでも特に重要な区画である第一次大極殿院の復原が進みます。

なお、木造であるこれら建造物の復原整備にあたっては、既に計画されている防火対策を強化します。

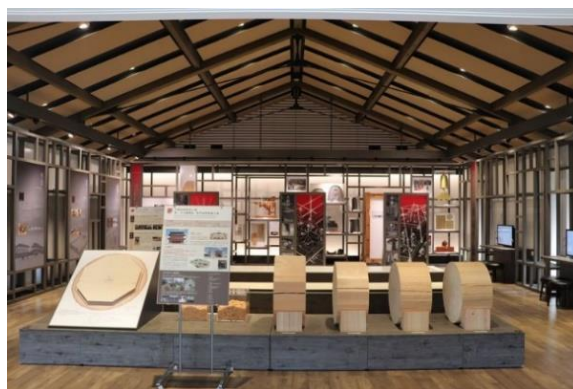
また、整備が長期にわたる復原工事について、その時々々の状況を、工事現場の公開や復原事業情報館の展示により多くの方に見ていただき、現在まで伝承される伝統技術の素晴らしさを広く発信するとともに、地域の観光振興に貢献します。



第一次大極殿院復原イメージ



南門工事現場の特別公開イベントの様子



復原事業情報館での展示

整備の重点方針

方針② 誰もが使いやすく安全な公園づくりを進めます

国営公園として整備することが閣議決定される以前より設置されている園路等について、バリアフリー化や緊急車両通行可能化などの機能向上を行い、公園の安全性や防災性を高めます。



既存の園路の更新・機能向上

管理運営の重点方針

方針③ 往時の歴史・文化を楽しみながら知ることができる管理運営を推進します

平城宮いざない館等の施設を活用し、国内外、年齢を問わず、来園者の誰もが楽しみながら往時の歴史・文化に触れ、親しみ、その内容を知ることのできる管理運営を行います。特に、第一次大極殿院南門（仮称）の復原工事が完了した後は、往事を感じることができる新たな施設として積極的に利用案内を行っていきます。

管理運営にあたっては、園路・広場・建物等を適切な状態に維持するとともに、隣接する県営公園を所管する奈良県をはじめ、文化庁や奈良文化財研究所等の関係機関と連携し、平城宮跡にしかない施設・空間や、発掘調査・研究成果等を積極的に活用した利用プログラムやイベント等を実施していきます。

さらに、地域住民による利活用を促しつつ、その実施等に際しては利用調整を行うことで園内の混雑を回避し、様々な来園者が楽しく快適・安全に過ごせるようにします。



平城宮いざない館での教育旅行の様子



天平たなばた祭り（令和元年度）

方針④ 新技術(AI や ICT)の活用による利用サービスの魅力向上や 運営維持管理の効率化を検討します

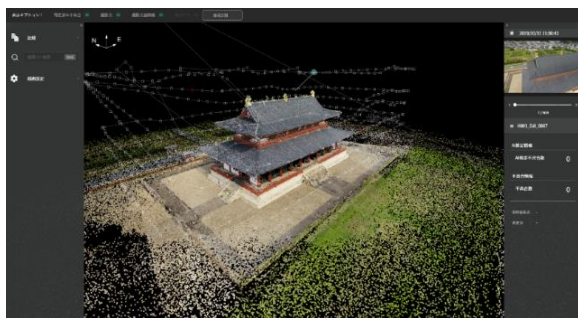
近年発達が著しいAI や ICT、ビッグデータ等の新技術を活用し、園内移動の利便性向上・歴史体験学習の改善等の利用サービスの魅力向上や、施設点検の省力化や公園利用状況のリアルタイムな把握等による運営維持管理の効率化の検討を図ります。また、地球温暖化防止対策として、省エネルギー機器等の導入や再生可能エネルギーの活用を検討します。



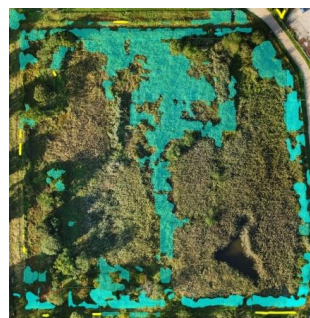
園内モビリティの運行イメージ
(令和2年に実施した社会実験の様子)



モビリティ(自動運転)と連携したVR技術による歴史体験・解説サービスイメージ(令和2年に実施した社会実験の様子)



ドローン等で取得される画像データを用いたAI画像解析によるインフラ点検のシステム構築イメージ
(令和2年に実施した社会実験の様子)



カメラで得られる画像やWi-Fiセンサーを活用した人流解析イメージ(令和2年に実施した社会実験の様子)



方針⑤ 自然的環境の保全とみどりの適切な維持管理を行います

平城宮跡に育まれた自然的環境を保全するとともに、その魅力を来園者に発信します。また、地下水の涵養により遺跡環境を保全しつつ、園内の花木等を適切に維持管理し、園内に彩りを加え、平城宮跡の季節に応じた魅力を引き出します。これらを通して、良好な景観を形成し、将来に大切に引き継ぎます。



令和2年に開催された平城宮跡水鳥探鳥会の様子

公園事業の効果

令和7年度までの間に方針①～⑤の施策を実施することにより、次のような事業効果が見込まれ、ストック効果をより一層高めます。

- 関係機関と協力しながら地下の遺構に配慮した整備や適切な維持管理を行うことで、平城宮跡の貴重な遺構が保存されます。また、公園として市街地の中に残る自然的環境の保全、安全・安心なオープンスペースの確保に努めることで、これらが将来に引き継がれます。
- 平城宮いざない館の展示や歴史体験学習のプログラム等により、来園者に平城宮跡への理解や関心を高めていただくことができるほか、往時の規模を体感できる空間や施設整備、新技術の活用により地域の魅力が一層向上します。
- 第一次大極殿院の建造物復原では工事現場の公開等により古（いにしえ）の技術のすばらしさを伝え、地域への来訪者数の増加や周辺観光に貢献します。
- 新技術の導入による、園内移動の利便性向上、歴史体験の魅力向上や施設点検の省力化などの検討を行うことで、地域への貢献や効率的な公園事業の推進につなげます。



①建造物復原の推進と公園利用 ②遺構の確認と確実な保存 ③平城宮跡内の自然
④安全・安心で快適に過ごせる緑地 ⑤貴重なオープンスペースで実施されるイベント